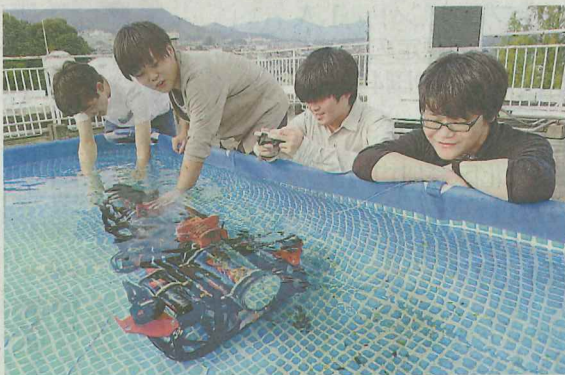


## クラゲ分解ロボットで 学生が開発



広島工業大

3年 近藤令奈



クラゲを分解するロボットを水に浮かべる  
原田さん（右端）たち

広島工業大（広島市佐伯区）の工学  
部知能機械工学科の学生4人が、水中  
でクラゲを分解するロボットの開発を

進めている。近年、海洋汚染などの影  
響でクラゲの大量発生が問題となつて  
おり、学生たちは「少しでも社会貢献  
につなげたい」としている。

ロボットは縦1尺、横7寸。搭載し  
たセンサーで海に浮かぶクラゲを探知  
し、先端に付いたホースで吸い込む。  
クラゲは網目状のフィルターを通過して  
1センチ程度の大きさに分解された後、海  
に放出される。

同科の安鍾賢助教(33)の指導を受け  
ながら、約4カ月かけて開発した。水  
中で使用するため、ロボット内部の精  
密機械に水が入らないよう工夫を重ね  
たという。今後、実用化に向けてテス  
トしていく。

開発メンバーの4年原田一輝さん  
(21)は「クラゲの回収と処分を一つの  
ロボットのできるので、実用性が高い  
と思う。今後も社会貢献につながるロ  
ボットの開発を続けたい」と話した。